

湯浅まちなみ勉強会

12月21日（金）に北の町老人憩の家2階で第1回湯浅まちなみ勉強会を開催しました。

本勉強会は、湯浅のまちなみ保存を考え直すきっかけを作ることを目的として開催しました。また、次回は1月25日（金）に開催予定となっていますので、ご都合の合う方はぜひご参加ください。

耐久高校地域学習

耐久高校定時制の地域学習に講師として木下会長が呼ばれました。講義は伝建地区の保存活動についてというテーマでの授業でした。伝建地区を知っている学生は少ないようでしたが、醤油の歴史についても合わせて説明をし、皆さん興味深そうに話を聞いていました。

～湯浅の歴史について学ぼう～ 第3回

明恵上人は、承安三年（一一七三）に、湯浅宗重の娘を母として今の有田川町歓喜寺で生まれました。幼少期に両親を相次いで亡くし、叔父を頼って京都・神護寺に入って華嚴宗の修行に努めます。

二十三歳の時、修行を深めるべく、祖父らが治める湯浅の地、栖原の白上（今の施無畏寺付近）に入って厳しい修行をしたと伝えられています。

明恵上人は、華嚴宗再興の祖と言われるほどの立派な僧であるほか、月の歌人と言われたり、夢日記を綴ったり、湯浅湾に浮かぶ苅藻島にあてて手紙を書いたり、と、知れば知るほど興味深い人です。

寛喜三年（一一三三）に施無畏寺の開山として法要に招かれた翌年、京都・高山寺にてその生涯を閉じました。

湯浅伝建地区保存協議会

皆様に瓦版をより身近に感じてもらうために、まちなみ瓦版の記事を募集しています！ご意見・ご要望などございましたら、右記のまちなみ瓦版編集委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

半邊 宗五

妻木 良三

道津 節子

楠山 吉雄

油谷 太一



まちなみ瓦版

■平成31年 1月 7日

■第 43 号

■発行：湯浅伝建地区保存協議会

■発行責任者：木下 智之

新年明けましておめでとうございます



ー昨年より準備を進めてまいりました「伝統的建造物表示プレート」が、1月末頃に完成する運びとなりました。これは、取り付けられた建造物が文化財であるとの証であり、既に全国各地の伝建地区でもそれぞれの表示プレートが設置されています。

完成次第順次、まちなみ整備部会を中心に設置作業を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

さて、当会の協力団体でありました「湯浅まちなみの会」が諸般の事情により、昨年末をもちまして解散することになりました。この影響で毎年恒例となる「ゆあさ行灯アート展」が開催できなくなりました。当会に主催をして欲しいとの打診があり、役員会で協議しましたが主催は困難である旨回答しております。

なお、「雛めぐり」「五月人形めぐり」「あじさいオープンガーデン」は、当会で引き続き開催の予定です。人間的に苦しい状況ですが、皆様が楽しみにされているイベントはできる限り続けたいと考えていますので、引き続き皆様のご支援の程をよろしくお願い申し上げます。

文化財防火デー(1月26日)

毎年、1月26日は「文化財防火デー」です。冬場は、火気を使う機会が増え、また空気の乾燥や強風など、火災が起こりやすい季節です。ストーブなどの近くには燃えやすい物を置かない、コンセントにほこりがたまらないようにする、放火の危険があるようなものはなるべく外に置かないようにするなど、日頃の意識を徹底しましょう。

伝建4地区自主防災組織よりお知らせ

この伝建地区で毎年行っている防火訓練を2月中に行いますので、後日連絡いたします。みなさんお誘いの上、ご参加下さい。

湯浅町役場よりお知らせ

北浜町耐震性防火水槽の設置工事が始まります

1月下旬～3月中旬頃に防火水槽の設置工事のため北浜町の一部が車両通行止め（歩行者、自転車は通行可能）になります。詳しくは、「通行止めのお知らせ」をご覧ください。ご迷惑おかけいたしますが、ご協力おねがいします。

問合せ先：総務広報課 地域防災係 0737-64-1108





今年度の保存協議会視察研修は、京都府の中央付近の山間部、南丹市美山町北伝建地区に行ってきました。事務局を含め19名の参加者は、秋が深まりつつある「かやぶきの里」で、地元の「かやぶきの里保存会」中野会長の案内で、集落の様子を視察したあと、意見交換会を実施しました。意見交換会では、小さな山間の集落だからこそできた住民間の連携や、火災に弱い町並みにおける防火対策など、活発な意見交換ができました。私たち湯浅の伝建地区で取り入れられること、そうでないことはあるにせよ、改めて住民による保存活動について深く考えることのできた視察研修でした。

【南丹市美山町北伝建伝統的建造物群保存地区】

重伝建の選定は、湯浅より13年早い、平成5年12月。崖の裾の斜面にかやぶきの民家が並び、屋敷地を固める石垣や、家庭で消費するための菜園・果樹園、背景の山も含めた約127.5ヘクタールの保存地区で、日本の山村集落の趣を今に伝える集落です。「かやぶきの里」として知られ、年間20～30万人の観光客が訪れています。

集落の存続が危惧されていた中ではじまった町並み保存は、当初から山村集落としての景観を維持しながら、後継者を作っていくことを目的に、住民の総意で進んできたとのこと。町並み保存の住民ルールである憲章の策定や、ほぼ全員の出資により設立した「有限会社 かやぶきの里」による店舗の運営、集落外からの移住者や新規出店者の受入等、40世帯ほど、約100人の集落が一丸となって、町並み保存に取り組んでいるとのことでした。



視察研修参加者の感想

木下) 都会に出ている人や地区外住民で物件を所有している人を巻き込むことが大切であると思われる。当会でも地区外に住んでいて地区に係わりのある人に対して瓦版を送付してみるといったような活動が必要であると思う。

太田) 一生懸命頑張っていることに関心を持った。我々も自分達の考え方をもって頑張りたい。

三橋) 人口や子どもの数が気になったので質問をした。

上野山) 前に行った時と変化がないと感じたが、これが美山の良さであると感じた。

楠山) 美山の活動をヒントに湯浅でも何かできないかと思った。

竹中) 若い世代に入ってきてもらえるように役場にもがんばってもらいたい。

見矢) 有限会社の組織、空き家対策、広報誌の活動についてすごいと感心した。

道津) 観光客を迎えるのが大変であると感じた。ほぼ100%の同意を得て、会社を設立し、株式の配当を平等にするといった配慮が素晴らしいと感じた。

山本) 家屋に塀が無く、温かい町だと感じた。資料館のスタッフの笑顔での対応がすばらしく見習いたいと感じた。

竹田) 住むのは大変そうだと感じた。雪の景色もみてみたい。

丸山) 湯浅とは違う雰囲気、四季それぞれの良さが感じられる地区でした。

炭原) 母の家が茅葺の家で、懐かしく思いました。

守屋) 美山を見習って湯浅の甚風呂も開館時間をもう少し長くしても良いかと思った。

芝) 会社を設立してやっているのがすごいと感じた。細かいところまで英語表記があって観光客に対しての配慮が行き届いていると感じた。

生田) 200年から続く家を守る努力がすごいと感じた。湯浅も1ターンUターンに対して活動し、後継者作りへ力を入れるべきであると感じた。

根来) 今回の研修で鯖街道がいくつもあることをはじめて知った。ポストの上にあったお地蔵さんがその街道筋であったのだろう。

松本) 住民でお金を出し合って、会社を設立したことがすごいと感じた。湯浅でもみんなで何かできることがあれば良いと思う。

梓谷) 広報誌や空き家の話を聞き、住民団体での問題意識の高さに関心した。